



OVERSEAS

Republic of the Philippines

— フィリピン共和国 —

海外事情



世界第4位の大都市圏「メトロ・マニラ」



日下 聡 KUSAKA Satoshi
株式会社片平エンジニアリング・インターナショナル/企画総務課

メトロ・マニラ

メトロ・マニラはマニラを中核としたフィリピンの政治、経済、文化、交通及び情報の中心地であり、首都圏(National Capital Region: NCR)と重なる都市群のことである。

メトロ・マニラに州は存在しないが、マニラや旧首都ケソンを含む16

市と1町により構成されている。この首都圏の面積は東京23区やスペインのマドリッドよりやや大きい638km²(フィリピンの国土は約30万km²)であり、人口は約1,630万人(フィリピンの総人口は約1億人)だ。また近郊を含む都市圏人口が約2,300万人(2016年)であり、東

京-横浜、ジャカルタ、デリーに続く世界第4位の大都市圏を形成している。

首都のマニラ市には「東洋の真珠」と呼ばれるマニラ湾の美しい夕陽や、世界遺産のサン・アグスチン教会などのスペイン統治時代の歴史的な建築物が残る。経済の中心



写真1 ボラカイ島の夕日

地であるマカティ市はフィリピンのウォール街といわれており、フィリピン最大のデベロッパー Ayala Land が広大な空軍基地跡地を開発してきた。また、ビジネス街・高級住宅地として新たに開発が進められているタギッグ市の「ボニファシオ・グローバルシティ」は、緑の公園を囲む形でオシャレな商業施設が軒を連ねる「ハイ・ストリート」を中心に、高級マンション、大手企業や国際的な金融機関の高層オフィスビルが建ち並ぶ。

歴史

フィリピンでの人類の歴史の始まりは紀元前約2万5,000年前とされている。この頃のフィリピンの島々はまだアジア大陸の一部だったが、紀元前1万年頃に大陸から分離した。それと同時にマレー人(原始、古、新)が移住し、このマレー系民族が今のフィリピン人の祖先となった。

フィリピンは東南アジアと東アジアの中間地点ということもあり、交易が非常に盛んな地域であった。14世紀後半頃からイスラム教徒が渡航するようになり、マニラをはじめイスラムの町へと変貌していった。しかし、現在はASEAN唯一のキリスト教国(国民の83%がカトリック、その他のキリスト教徒が10%)であり、イスラム教徒は5%程度である。その後、1521年のマゼラン来航から19世紀の終わりまでスペインの支配下に置かれた。フィリピンも植民地化に抵抗するため、幾度となく反乱を起こしたが、すべて失敗に終わっている。

19世紀末、フィリピンの国民的英雄となるホセ・リサルによって本格的な独立運動が行われた。アメリカからの支援もあり、1898年にフィ

リピンはスペインからの独立を成し遂げた。しかし、植民地化するために支援したアメリカは、スペインから独立後、すぐにフィリピンを植民地としてしまう。フィリピンも抵抗すべく戦争を起こしたが、成す術もなく鎮圧されてしまう。

第二次世界大戦中は日本軍により占拠されたが、戦後の1946年にフィリピンはアメリカからの再独立を果たす。独立国家になってからも、マルコス独裁やアジア通貨危機といくつもの困難に直面した。しかしながら、アジア通貨危機の際には他のアジア諸国と異なり、比較的早い段階で経済回復を成し遂げたため、IMFの管理下に置かれることはなかった。また、長年の懸案であったミンダナオ島を活動拠点とする南部武装ムスリム勢力(モロ・イスラム解放戦線)との和解交渉が成立した2014年以降は、ミンダナオ島にもアメリカなどからの直接投資が入り始めた。

現在のフィリピンは人種が融合する国家となり、スペイン、中国、欧米、東アジアなどの混血が進んでいる。

経済

フィリピンに住む華僑は1,000万人ほどおり、そのうちの中国語を話し、中国人の生活様式で生活している中華系の100万人がフィリピン経済の90%以上を掌握しており、フィリピンを動かしていると言っても過言ではない。また、フィリピンの経常収支は1,000万人に及ぶ海外在住労働者の送金によって支えられており、出稼ぎをしている看護師はフィリピンの有力な産業となっている。フィリピン人は世界で三番目の英語圏の国と言われており、多くの人が流暢に英語を操るので、海外でもすぐに仕事を始めることができる。

気候や自然

フィリピンは熱帯地方に位置し、赤道に近いことから年間の温度変化は少なく、気温が20~38℃の範囲を超えることはごく稀である。しかしながら湿度は年間を通してとても高い。乾季は12月の後半から5月にかけてで、残りの期間が雨季となる。雨季は雨により熱気が幾分抑えられる。雨が一日中降ることは稀で、短時間に激しく降るスコールが



写真2 ボラカイ島の市場

多い。台風の季節は6～9月であり、日本に来る台風のほとんどがフィリピン近郊で発生したものである。また、20世紀最大といわれる1991年6月のピナツボ山噴火や2013年10月のボホール地震、11月の台風ヨランダに代表される自然災害の多い国の一つである。これら自然災害で毎年何百人もの死者が出ている。

食生活

マクドナルドが唯一勝てないのが、蜂のマスクットがとても愛くるしいフィリピンのハンバーガーチェーンのジョリビーである。ほとんどの客がオーダーするのは、ハンバーガーではなくフライドチキンとライスのセットで、日本でいう唐揚げ弁当である。フィリピン人はブラウンソースをライスにかけ、ナイフとフォークを自在に使いフライドチキンをばらして食す。ジョリビーはフィリピンの他にアメリカ、シンガポール、香港、インドネシア、ブルネイ、クウェート、カタール、サウジアラビア、バーレン、UAEに進出している。中東に多く進出しているのは、フィリピン人海外在住労働者のためだろう。日本にも2018年に進出するらしいので、その時には試してみてもいいだろう。また、タマリンドという香草を使った日本の味噌汁にあたるシニガン・スープや、子豚の丸焼きのレチョンも有名である。

治安

フィリピンは銃社会であり、銀行やビルの前には銃を持ったガードマンがおり、商業施設の入り口には金属探知機が設置されている。商業地マカティでは強盗等の被害が絶えない。夜間に移動する際、明らかに物騒な雰囲気のある場所に出くわすと、歩いて通過せず、強盗に遭わな



写真3 ジョリビーハンバーガーショップ



写真4 マヤマヤ・シニガン・スープ



写真5 子豚の丸焼きのレチョン

いようにタクシーに乗車する。フィリピンで長期滞在していると、ホールドアップに遭っている人が多い。年に数回は邦人が睡眠薬強盗に遭っている。

この強盗は、観光地や公園などで「私も観光客だ。一緒に観光しよう」と声をかけ、その後、フィリピン人の仲間が合流し、公園内もしくはレストランで睡眠薬の入った飲食物を出す。それを口にすると、睡眠薬の強さにもよるが、段々と意識が薄れ、しまいには昏睡状態に陥る。被害者の多くは1～2日後に目が醒めるようだが、その時には所持品は盗まれている。運が悪ければ命を落とすことになる。フィリピンではくれぐれも見ず知らずの人からの飲食物の

提供にはご注意願いたい。また、路上での喫煙や飲酒等は禁じられており、罰金の支払いを拒否すると警察署に連行される。

一方、フィリピンではイスラム系反政府武装組織バンサモロ・イスラム自由戦士団 (BIFF) やイスラム過激派組織アブ・サヤフ・グループ (ASG)、共産系反政府武装組織である新人民軍 (NPA) 等が活動している。近年、フィリピン最大のイスラム系反政府武装組織とされてきたモロ・イスラム解放戦線 (MILF) は、フィリピン政府との和平プロセスを推進する立場となり、反政府活動等



写真6 乗り合いタクシー・ジープニー

は控えている。しかし、2014年9月、2015年9月、2016年11月にはASGによる外国人を狙った身代金誘拐事件が発生しているので注意が必要である。

交通渋滞

メトロ・マニラの交通の大動脈であるパサイ市とケソンシティーを結ぶ幹線道路 (EDSA) の朝夕のラッシュアワーには、日本では近年見られなくなった渋滞が延々と続く。マ

カティから郊外の自宅まで、3～4時間かけて、ジープニーやバスを乗り継いで帰宅する会社員や学生も多い。そのため、EDSAを含めた渋滞緩和策として、幹線道路の立体交差化、高架鉄道の延長、地下鉄の導入等が計画されている。

ジープニーはマニラで最も有名な交通機関の一つで、第二次世界大戦後に米軍が払い下げたジープが元となった乗合タクシーである。初乗り料金が約20円と公共交通機関

の中でも安価で、決まったルートで走行する。しかし、車内ではスリや強盗等が頻繁に発生するため、外国人が乗るには注意が必要だ。

世界遺産やビーチ他

フィリピンの世界文化遺産には「バロック様式教会群 (サン・アグスチン教会、アスンシオン教会、ビリヤヌエバ教会)」「コルディリエーラの棚田群 (バナウエ、マヨヤオ、キアング、フンドゥアン)」「ビガン歴史都市 (セント・ポール大聖堂、サルセード広場)」があり、世界自然遺産には「トゥバタハ岩礁海中公園 (パラワン)」「プエルト・プリンセサ地底河川国立公園 (パラワン)」「ハミギタン山地野生生物保護区 (ミンダナオ)」がある。

またボラカイ島、パラワン島、サマル島などの世界有数のビーチが点在し、サーフィンやスキューバダイビングのスポットとして有名である。

さらにメトロ・マニラの雰囲気は、2013年の『メトロマニラ 世界で最も危険な街』や1992年の『フィリピン人を愛した男たち』の映画から感じることができる。

<写真提供>
写真3 Jollibee Website



写真7 サマル島のダバオビーチの引き潮



写真8 マヨン火山のあるピコル地方での休日